



今号のトピックス	page
事務局からのご案内	1
特集「サツキとメイの家」	2・3
活動報告 「近山スクールはじまりました」	4・5
読み物のページ「森の文化 木の文化」	6
読み切りトピックス「知っていますか」	6
活動報告	7
事務局からのお知らせ	8

**事務局からのご案内**

2004年度第5回通常総会が開催されました

9月10日(土)に名古屋工業大学2号館1階F1講義室(名古屋市昭和区御器所)にて、加藤長光理事を議長として2004年度第5回通常総会が開催されました。

議題は、以下の通りで全号議案は、全会一致で議案どおりに議決されました。

- 第1号議案 2004年度事業報告 (大江忍理事長)
- 第2号議案 2004年度会計決算報告(大江忍理事長)
- 第3号議案 2004年度会計監査報告(秋野卓生監事)
- 第4号議案 2005年度事業計画案 (大江忍理事長)
- 第5号議案 2005年度会計予算案 (大江忍理事長)
- 第6号議案 理事、監事の改選について
- 第7号議案 その他

尚、第6号議案の理事、監事の改選につきましては、自薦他薦等ありませんでしたので、昨年度と同じ理事・監事で今年度も進めていくこととなりました。



総会の様子

通常総会終了後、当日お集まりいただいた会員の方より以下のご質問・ご意見を頂きましたので、紙面にてご紹介いたします。

意見:他の会員の方が、何をしているのかHP上で知ることができれば、もっと交流が進むと思う。PDFファイルなどにして情報を公開できるようにしてはどうか?

回答:今年4月から導入された個人情報保護法との兼ね合いがあるので、不特定多数の利用があるホームページで情報を公開するのはできないが、会員のみが利用できる掲示板がホームページにあるので、会員同士の交流の場として使用して欲しい。

意見:会員数が、減ってきているのがさびしく思う。緑の列島ネットワークも、社会に対してもっと積極的な啓蒙活動を行って欲しいと思う。

回答:ご指摘の通り、一般会員の数は減っている。会員の皆さんからも声かけをお願いしたい。また、フォーラムなど地域ネットワークのご協力があれば、一緒に行くことは可能なので、そういった積極的な動きを事務局に知らせて欲しい。

2004年度第7回理事会が開催されました

2004年度第5回通常総会に先立ち、2004年度第6回理事会が、同じく名古屋工業大学にて開催され、以下の項目の検討が行われました。

森林基金について

設立当初から行っている森林基金が、60万円を超える基金となっている。これを是非、有効につかってほしいと考えるので、地域グループへの呼びかけを行う。

フォーラムについて

現在の運営体制では、緑の列島ネットワークが主体となってフォーラムを開催することが難しいので、地域ネットワークの主催を協力する形で進めていきたい。

## 『サツキとメイの家』

～ 五月組工務店の挑戦 ～

9月24日の閉会した愛・地球博は2200万人を超える入場者を記録しました。会場の数あるパビリオンのなかでもひとときわ人気の高かった建物の一つに「サツキとメイの家」があります。

9月10日、そのサツキとメイの家の親方と棟梁を迎えての、シンポジウムが行われました。その様子をレポートします。

中村さん(左)と増田棟梁(右)



アニメーション映画「となりのトトロ」に登場する「サツキとメイの家」が、愛知万博に登場して人気を博したことは、記憶に新しいことと思います。「サツキとメイの家」では訪れた人にゆっくり見て欲しいということで、一日800人に観覧者をしぼり、そのチケットはプレミアがつくほどの人気を誇りました。

建築中の様子や、実際に万博が始まってからの来訪者の感想などは、読売新聞や同新聞社のホームページに紹介され、訪れた子供たちのワクワクした様子や、大人たちが木の家のぬくもりを通して感じた“懐かしさ”が紹介されました。

この「サツキとメイの家」をつくった親方の中村武司さんは、緑の列島ネットワークの会員でもあります。9月10日、中村さんと棟梁の増田さんを迎えてシンポジウムが行われました。

### 《セットではない本物の家をつくりたい》

万博会場で次々に大きなパビリオンの建設が始まった2003年12月、スタジオジブリのプレス発表が行われ、『サツキとメイの家』の建設を行うことが発表されました。後にこの建物建設の親方となる中村さんは、たまたま見ていたテレビでこのニュースを知ります。

それから約2週間後、工作中の中村さんの携帯電話に博覧会協会から電話がありました。以前、博覧会協会の催事グループ課長の子供らの家作りワークショップを中村さんが手伝っていたことがきっかけでした。さっそく、博覧会協会と中村さんの打合せが行われ、そのなかで中村さんはジブリ側の『見世物ではない、本物の家を建てたい』という熱い思いを知り、その思いに賛同しプロジェクトに参加することを決意されました。そして 参加にあたって棟梁に大工仲間である増田さんを迎え、このプロジェクトへと進んでいくこととなります。

### 《期間限定！五月組工務店》

建設は、木材の調達から始まりました。映画の設定を再現するには、当時の手法で建設を行う必要があります。それには木材選びからはじめなければいけません。『サツキとメイの家』では、愛知県鳳来町(ほうらいちょう)の製材所に出向き、木材を調達した結果、使用した木材の約95%が地元の木という正に“近くの山でつくった家”になったそうです。

地場産材を使ったこの家は、木組みで建てられています。当日会場では、木組みの模型をご持参いただきました。(上写真)

伝統工法で作られている『サツキとメイの家』。その建設に携わった彼らのほとんどが、20・30代という非常に若手の大工さんたちです。普段は別々にお仕事をされていますが、“大工塾”などの勉強会で知り合い『サツキとメイの家』の建築のために集まりました。この大工集団は、映画にちなんで『五月組工務店(ごがつぐみ)』と名づけられ、おそりの半纏には、『と』の字の染め抜きがしてあります。こういった遊び心と、彼らの技術そして活気がとてもうまく融合してこの『家』が出来上がったことが分かります。



満員のシンポジウム会場。中村さんと増田さんのテンポの良い話に、のめり込みます。

## 《苦難の連続・部材調達》

『見世物ではなく本物の家』をというプロジェクトの大テーマのため、通常の建築とは違った苦難はまだまだ続きます。映画の設定では、建築時は昭和10年代。セットでない本物の家をつくるために、昭和10年代に使われたであろう材料を調達しなくてはなりません。

現在のように透明なガラスを作ることができなかった時代の歪みのあるガラス、大量生産ができなかったこと頃のタイル、手作業でつくられていた屋根瓦、今はほとんど目にする事のない上がり湯釜、レンガで組まれた風呂等々。それらひとつひとつの部材を探し、吟味し、あるときは取り壊しの決まった家から部材を頂き、あるときは職人さんに製作をお願いする、そんな大変な作業が続きました。

中村さんはゆがんだガラスを熱心に探すあまり、街を歩くときにはついつい窓ガラスを覗き込み、ゆがんでいると思わずうれしくなって顔がほころんだといいます。

工場生産で均一な品質が当たり前となった現代では、当時の一つ一つに味のある部材を作ることが非常に難しくなっていることを痛感させられます。

## 《新築の家を古く見せる技》

『サツキとメイの家』の、もう一つ大きな特徴はエイジングにあります。映画では、この家に引っ越してくる時点で、すでに建築から25年たっているという設定ですので、新築の家を古く見せるための工夫が必要だったのです。実際に、映画の中ではパーゴラの支柱を子供たちが『わー、グラグラ』と喋ってゆらすシーンがあります。

自然塗料を塗ったり、表面を焦がした後で鉋をかけたりと、試行錯誤されたそうです。苦労の末に行ったエイジングですが、棟梁の増田さんは万博の開催中に訪れる約14万人の人が歩いたり、触れたりすることによって、人工的に施したエイジングも本当のエイジングになるのでは話します。



## 《家づくりとは人と人との関係》

中村さんは家づくりは人と人が関係をつくることで成り立つと、話します。

『サツキとメイの家』の建設によって、現代の家は、“モノに囲まれ始めて成立する家”一方、昔の家は必要な時に必要なモノをつくるスタイルで、そのために必要な生活の技術をもっていた“生産する家”であると話す中村さん。

伝統工法を行う職人の高齢化が叫ばれる中、お二人と、スライドのなかで生き生きと働く五月組工務店の姿は、会場に訪れた人たちに、たくさんのエネルギーをもたらしたに違いありません。

たくさんの写真と中村さん、増田さんのお話はとても臨場感があり、会場で聞いていた私たちが、あたかも一緒に建築に参加したような気持ちになりました。

シンポジウム後、中村さんが改修したオーガニック居酒屋「空色勾玉」で懇親会が開かれました。



五月組工務店として、一緒に建設に携わった大工仲間も会場に駆けつけてくれました。

屋根飾りの説明をする北山さん(右)と池山さん(左)。

## 『近山スクール』始まりました。

2005年6月名古屋で、『近くの山の木で家をつくるスクール（略称：近山スクール）』、そして9月には東京で始まりました。

近山スクールは、森林から建築材として使用されるまでの流通、木材の性質、木造住宅についてを総合的に学ぶことで、国産材による安全で健康な暮らしの情報を一般消費者に提供し、また提案できる専門家の育成を目的としています。

ニューズレターでは、その一部をご報告します。

今後、近山スクールに参加できない方にも、講義の内容をお伝えできるように検討していきます。

### 近山スクール名古屋

近山スクール名古屋は、山の現状と文化の理解、木を活かした住まいづくりのデザインメソッドなどをテーマとした「一般公開講座」と「基本講座」、木を活かした建築を構造的に理解するための専門家向けの「特別講座」を開設しています。第1回目は6月4日、鈴木有先生の講義で始まりました。

会場には朝日新聞などで、この日のことを知った一般の聴衆の方や近山スクール受講者で埋まりました。

鈴木先生からは、近くの山の木で家をつくることの意義や木造伝統構法の持つ優れた特性についての講演があり、中越地震の報告では、伝統軸組工法の住宅がいかに地震に対して有効な造りであるかが明らかにされたとの報告がありました。会場からは、現在住んでいる古い伝統工法住宅についての地震への不安などの質問が出ました。

講演終了後、会場で質疑のあった方の御自宅が近くにあったので鈴木先生は出向かれ、非常に丁寧に施工された住宅であることを評価されました。今後の調査の御希望もあり、その後の調査については、近山スクールメンバーが行うことを約束して帰りました。その後、若手大工さんや学生さん、受講生も交えた懇親会が鈴木先生を囲んで開かれ、今後のスクールの継続につながる情報交換の場となりました。



鈴木有先生



講座の様子

### 《近山スクール名古屋 第2回基本講座の報告》



藤岡邸見学の様子



9月17日（土）、第2回・近山スクール名古屋が開催されました。

第2回のテーマは、『伝統構法住宅の設計メソッド』として、緑の列島ネットワークの理事である藤岡さんのお宅を見学し、クライアントが語る伝統構法住宅の棲み心地を学びました。

藤岡邸は、新建材を使わない家づくりをテーマとして設計されました。設計は、本ネットワークの理事長である大江氏です。

当日は、まず藤岡邸のリビングに集まり1時間ほどパワーポイントで地盤調査から、地盤工事、基礎工事、建前、竹小舞組み、壁塗り、炭化コルクによる断熱など、新建材を使わない家づくりの工程を写真での説明がありました。

その後、3つのグループに分かれ、第1班は左官の岡田明廣氏による土壁についてサンプルや道具を見ながら解説を受けました。第2班は、大江氏による設計者の立場からの説明を受けながら、各部屋の細部を見学し、第3班は、木の家に暮らすこと、メンテナンスなどについて施主である藤岡さんとの質疑応答を行いました。各参加者は、それぞれ3つを順にまわり木の家で住むことについて、施主と設計士といった関係から学び取ったことが多くあったと感じられました。

2005年9月17日、近山スクール東京が始まりました。東京では、緑の列島ネットワークの設立当初からMOKスクールとして講座を行っていました。今年から”近山スクール東京”として開講されます。この講座は、高度ポリテクセンターの共催を受け全6回来年の3月まで行われ、講義のほかにフィールドワークも行われます。また、講座のあとには懇親会が行われ参加者同士の交流が期待されます。



近山スクール東京の様子



近山スクール東京事務局  
北島さんの挨拶

第1回目の講義は、宮崎県木材利用技術センター所長有馬氏と、緑の列島ネットワーク元理事長の長谷川敬先生の話で幕を開けました。

《林業の役割・木材の性質/有馬高禮氏》



有馬高禮氏

木材を建築に使う際のポイントを、樹種、生物体であったこと、多孔質であること、含水率、異方性の5つにわけ、それぞれのポイントで注意すべきことについての解説があり、木材と一言で言っても樹種や生産地・気候条件などによってその特徴が大きく変わり、木材との付き合い方についての知識を持つ重要性を再認識させられました。

また京都議定書の排出量削減目標を達成するため、

日本の森林が担わねばならない大きな使命についての説明がありました。

木造の校舎と、RC校舎ではインフルエンザで学級閉鎖となる発生数の違いに大きく差が出ること、また教師から見た生徒の感想にRC校舎では、落ち着きがなくなるなど行動の発育面からも興味深いデータを示されました。

《木の家をつくる 設計という仕事 /長谷川敬氏》

設計者という立場から、木を建築材として用いる際のための心得と、その優位性についての説明がありました。

長谷川氏自身が、かつて設計した住宅の現状をスライドで解説し、雨や経年変化に耐えられる木造住宅を作るために注意すべきことなどが紹介され、参加した設計士の方々からは、その後多くの質問が出ました。

国産材（地場産材）を使うには、まだまだ費用や乾燥技術など、様々な課題はあるものの、快適な住宅を施主に提供したいと語られました。



長谷川敬氏

講座の紹介		
第1回	『林業の役割・木材の性質』	有馬 考禮
9/17	『設計という仕事』	長谷川 敬
第2回	『ゴミから家づくりを考える』	桑原 次男
10/15	『住宅の室内環境と設備設計』	安孫子 義彦
第3回	『林業の現状と山から望むこと』	井上 淳治
11/19	『設計という仕事』	日影 良孝
第4回	『期から木材へ・製材と木材の乾燥』	大河原 章吉
12/17	『住宅生産の実態を探る』	蟹沢 宏剛
第5回	『消費者の立場から住宅を考える』	北島 碧
2/18	『大工の技術を活かし伝統工法で家をつくる』	渡辺 隆
第6回	『山と町を結ぶ人と資源の大きな流れをつくろう』	合原 真知子
3/18	『丈夫な家の作り方』	山辺 豊彦

## -ドイツの森林教育-

ドイツ人は森の民だと言われています。森の近さは、日本の都心とは比べ物にならず国民の生活にも森が溶け込んでいます。今では環境先進国と言われるドイツも、かつては人間の欲望のままに木材を利用し荒廃を招いたり、記憶に新しい所では、酸性雨によって森が被害を受けるなどの歴史を持っています。ドイツでは、このような人間の過失による森林被害を繰り返さないために、小さい頃から森林の大切さを教えてることが非常に大切と考えられています。

日本でも紹介され認知度が高くなっている森林教育のひとつに、『森の幼稚園』があります。森の幼稚園は、今から50年ほど前デンマークで生まれました。当時、ドイツではあまり広がりませんでした。90年代に急速に広まり、今では長いウェーティングリストが当然というほどの人気となっているそうです。

森の幼稚園には特別な施設はなく、小さな小屋や古い鉄道などを利用した集合場所があるだけです。朝、親は園児をそこまで連れて行きます。園児たちの持っている大きなバックには、汚れた場合の着替え、10時のおやつなど入っています(ドイツの幼稚園は、通常午前中で終わります)。毎日変わる森での遊びは、園児にとって最高の遊び場であるようで、落ちていた枝を工作したり、木登りをしたり、きれいな葉っぱを集めたりと彼らの見つける遊びは数え切れないほど豊かです。

午前中しっかりと体を動かして遊ぶ子供たちは、病気になりにくく、午後は家で落ち着いて遊べ、夜はしっかりと睡眠が取れると注目を集めています。また、問題解決能力や、調和性が身につくとされています。



森林教育は、小学校に入ってから続きます。日本の総合学習と似ており、あるテーマについて掘り下げます。

左の写真は、南ドイツのロッテンブルグという街での森林教育の様子です。この3年生のクラスを受けもつ女性のご主人は、森林官でありまた林業専門大学でも教鞭を取っていることから、一日講師を引き受けています。写真では、ドイツトウヒとモミの違いを説明しながら、人工林の役割について解説をしています。

五感を通して学ぶことで、子供たちの興味がわき、こういった授業が何よりも子供の心に残るとこの教師は語ります。

前述したように、すぐ周りに森林関係者がいる環境ばかりではないので、環境教育のプログラムを企画するNPOや団体が増えています。日本と比較すれば、非常に健全に見える林業も

長年の不況にの影響と、国家予算の大幅な削減により、林業関係の新卒採用が非常に難しくなっている今、こういった団体に職を求める学生も少なくありません。

## 読みきりトピックス『知っていますか』

今年『クールビズ』を大成功させた環境省。政治家や、著名人、ファッション業界をうまく巻き込んで広く国民に認知されました。クールビズの効果についての論議はありますが、国民にこういった考え方が浸透したことが、まず重要なステップなのではないでしょうか。

国をあげて二酸化炭素削減を目指す今日、農林水産省も国民にむけたPR活動を始めました。今年始まったばかりの『木づかい運動』の国産材を使おうというテーマは、まだまだ漠然としていますが、広く受け入れられ、かつ木づかい運動を行うことが、企業にとってイメージアップになったり、個人の環境が快適になるといった提案を通して、広がっていくことを望みます。

## -木づかい運動-

今年2月に発行された京都議定書の目標を達成するためには、国内の森林が重要な鍵となります。農林水産省ではこれを受けて、国土の保全と国産材利用拡大にむけた普及啓発を目的とした『木づかい運動』を今年度よりスタートさせました。この取組みは、2008年まで行われ、国産材の需要を高めることで伐採と植林のサイクルを早めて、二酸化炭素吸収量を増やしたいとしています。特に、今年10月は『木づかい推進月間』として、この活動のPRのための集中的な取組みが行われています。

この運動を広げるための提案として、3.9 GREEN STYLE (サンキューグリーンスタイル) というライフスタイル提案が始まっています。森林による削減効果として掲げられた1300万tは、日本の排出削減量の6%の3分の2にあたる、3.9%にあたります。提案のタイトルである、3.9はこの目標値3.9%(サンキュー)を、日本の森林に感謝(サンキュー)して達成しようという意味があります。

鈴木先生の出演番組・再放送されました

緑の列島ネットワークの相談役・鈴木有先生が出演されたNHKの番組が8月再放送されました。番組は今年1月に放映された、NHKの「生活ほっとモーニング」の阪神・淡路大震災十周年特番でのワンランクアップ生活術「地震に備えるために」です。番組は、「家の色々な工夫で災害を避けられる」というタイトルで鈴木先生ご自身の自宅の地震対策が紹介されました。木の住まい、エコロジー住宅で地震に備えるという切り口でも紹介されています。

視聴者の反響が大きかったことから、3度目の再放送となりました。7月に起こった関東地域での地震、8月の宮城県沖地震と大きな地震が続き、地震に対する不安と、地震対策への関心の大きさが伺えます。

紹介されたNHKのHP

[http://www.nhk.or.jp/hot/onair\\_old/20050118/20050118b.html](http://www.nhk.or.jp/hot/onair_old/20050118/20050118b.html)

地域グループ：職人がつくる木の家ネットホームページのご紹介

地域グループの『職人がつくる木の家ネット』のホームページでは、会員さんたちの取り組みが非常にわかりやすく、テーマをもってレポートされています。今回は、その中から緑の列島事務局がオススメするレポートをご紹介します。他にも非常に興味深いレポートがたくさんあります。是非ご覧ください。

職人がつくる木の家ネットHP

<http://www.kino-ie.net>

【赤堀楠雄氏のレポート】林材ジャーナリスト赤堀楠雄氏による林材レポートです。林業の経営不振や、山とつながる家づくりのあり方についてのわかりやすく整理されています。

[http://www.kino-ie.net/akahori\\_011.html](http://www.kino-ie.net/akahori_011.html)

【和田善行氏のレポート】緑の列島ネットワークの理事である和田善行氏の取り組みについてのレポートがあります。山側から家づくりの提案をすすめている「TSウッドハウス協同組合」は、杉を構造材に使うというテーマをもって展開されています。同協同組合の考える、家づくりと山づくりを学ぶことができます。

[http://www.kino-ie.net/interview\\_191.html](http://www.kino-ie.net/interview_191.html)

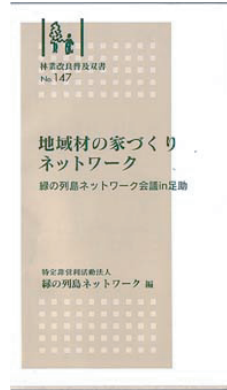
【中村武司氏のインタビュー】このニューズレターの特集『サツキとメイの家』の親方・中村氏のインタビューです。中村氏の考える大工同士のネットワークの必要性などを知ることができます。このインタビューを読むと、『サツキとメイの家』の五月組工務店の活気の原因が分かる気がします。また、『サツキとメイの家』の特集のページもあります。

[http://kino-ie.net/interview\\_021.html](http://kino-ie.net/interview_021.html) (中村氏インタビュー)

[http://kino-ie.net/genba\\_021.html](http://kino-ie.net/genba_021.html) (現場レポート)

本の紹介

緑の列島ネットワークでは、『近くの山の木で家をつくる運動』の活動をより多くの人に知ってもらい、さらに広げていくため書籍を発行しています。ここで紹介する本は、緑の列島ネットワークでのホームページでも、購入することができます。



地域材の家づくりネットワーク

様々な地域グループが集まっている緑の列島ネットワーク。『近くの山の木で家を作る』という理念は同じでも、その規模・システム・活動内容など諸条件は様々です。この本は、2003年愛知県の足助町で行われたネットワーク会議での各地域グループの活動報告が紹介されています。

既に地域ネットワークを組織している方にも、これからつくりたいと思っている方にもまた消費者として地域グループに参加して、勉強したいと思っている方にも参考になります。

発行所：(社)全国林業改良普及協会

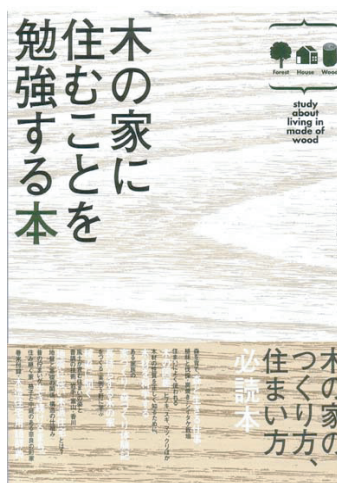
価格：税込 1155円

近くの山の木で家をつくる運動宣言

緑の列島ネットワーク活動第1弾として2000年に発行されました。著名なエッセイスト、写真家、学者、設計士などが寄稿し、日本の林業と家づくりの現状を伝えています。

問題提起としての内容となっており、緑の列島ネットワークの今後の活動のあり方を考える上で、非常に大切な一冊です。

価格：税込 1000円



木の家に住むことを勉強する本

木の家が、どのようにして山とつながっているのかが分かる本です。山の様子や、木材の特徴、木構造、森林を取り囲む様々な問題をたくさん写真やイラストで、わかりやすく知ることができます。

これから木の家を建てたい人にはもちろんですが、設計士からお施主さんへ木の家の良いところを知ってもらうために教則本として使用するのにもよいかもしれません。

農文協刊

価格：税込1980円

## 会員発のニュースを募集しています

見学会や勉強会、イベントなどこれからの活動予定をホームページで全国に発信しませんか。またそうした活動について、このニューズレターで詳しく報告していただくことが出来ます。

木守人、生活者、建築者それぞれの立場から多様なニュースが集まるように期待しています。ニュースをお持ちの方は、お気軽に事務局にお知らせください。メール、郵便、ファックスなどどのような方法でも結構です。

情報をお待ちしています。

## 地域グループWEBからの登録のお願い

現在は3名の会員でグループが作れます。グループのメリットは独自のウェブページにてグループの紹介が出来ることです。現在すでに、地域グループを組まれている方で、まだWEBからの登録をされていない方は、是非この機会に登録して情報発信にお役立ててください。

([http://www.greenarch.or.jp/group\\_sheet\\_enter.html](http://www.greenarch.or.jp/group_sheet_enter.html))

## 会員専用の掲示板を利用してください

緑の列島ネットワークのホームページに、会員専用の掲示板を作りました。しかしながらあまり利用されていません。会員の皆様の情報交換や、事務局に対するご意見など、活発な意見交換の場として、是非ご活用ください。

(<http://www.green-arch.or.jp/treebbs2/0/index.html>)

アクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要になります。

ユーザー名:midori  
パスワード:retou

## 寄付を頂きました

以下の方々より、寄付を頂きました。有効に活用させていただきます。誌面をもちまして深く御礼申し上げます。

乾憲男様	正会員	5,000円
綿貫光泰様	賛助会員	3,000円
石川道子様	高齢の為退会に際し	5,000円
三重県在住	M様	500,000円
都郷美代子	高齢の為退会に際し	5,000円
近山スクール名古屋		30,000円

## 【編集後記】

今回の特集であった『サツキとメイの家』。本文にも書きましたが、中村さんと増田さんのプレゼンテーションに、聞いている方もまるで一緒につくったかのようなワクワク感を体験することができました。同日に行われた懇親会には、五月組工務店として一緒に『サツキとメイの家』の建設に携わった大工さんも多く参加され、理事や会員の方々との交流が行われました。彼らのパワーと、そして肩肘を張らないスタンスに、日本の伝統工法の将来性を感じさせていただきました。

9月の選挙で圧勝した自民党。結果については、賛否ありますが私たちが選んだ政権としての行動を望みます。自民党は、林野の分野に以下の政権公約を掲げています。この公約が実際に行われるようにするためには、私たちの厳しい目が必要です。以下、自民党のHPより政権公約を紹介します。

森林の環境資源政策・林業対策を積極的に推進  
京都議定書目標達成計画の着実な推進を図るため、森林の環境資源面を重視した政策の推進及び、森林の整備・保全、「緑の雇用」、木材利用の拡大等を推進。合法に伐採された木材の利用を推進する枠組みづくりへの積極的な対応。

(原文のまま。自民党HPより抜粋)

東京では、2年ぶりに(先回は2003年に開催)近山スクールが始まりました。様々な分野の講師と参加者の皆さんの中で、交流が始まりつつあります。

緑の列島に関する皆さんからの厳しいご意見を様々な場所で、頂いております。ネットワークの活動・このニューズレターにもどんどん反映させて頂きたいと思っておりますので、事務局までご意見お寄せください。

平成17年10月15日発行

特定非営利活動法人 緑の列島ネットワーク事務局  
理事長：大江忍

〒450-0003

名古屋市名村区名駅南1-3-15 サントピアビル3F

tel:052-566-0064 fax:052-566-0074

E-mail:jimukyoku@green-arch.or.jp

WEB:<http://www.green-arch.or.jp>

編集主幹:江嶋景子